

【部会の活動—原発と自然エネルギー研究部会】

原発と自然エネルギー研究部会スタート！

2011年3月の東日本大震災・福島第一原発事故以降、ぐんま教育文化フォーラムでは福島に関して2回の取材と3回の「原発と自然エネルギーを考える市民学習会」をおこなってきましたが、昨年5月18日の総会で加納・坂田の2名で部会をスタートしました。その後3名を加えた部会会議の中で、「事実から学ぶ」「声を上げる」という活動の方向を、互いの熱い想いを語り合いながら確認しました。検討の結果、群馬の汚染を実感するために「食品の放射能を測ろう」と決めました。12月に米ヌカと田んぼの土で予備測定をおこなったら、出てしまいました、セシウム！そこで、次のように公開測定と学習会をおこないます。（詳細は近日フォーラムHPに掲載します。ご覧ください。）（坂田尚之）

2月11日(火) 学習会「実際にどうやって食品の放射能を測るの？」

教育のつどい2014 13:00 公開測定/13:30「原発と教育」分科会 会場：群馬県青少年会館

○部会員の声

◆校内で放射線量を測定していた時、生徒や先生たちからこの場所の線量は高いのか低いのか、どのような影響をもたらすのかというような質問をしばしば受けました。私は的確な答えを用意することができませんでした。そのときの反省と後悔も含めてこの部会に参加しています。

原発と放射能汚染の問題は喫緊の課題であり、未来永劫の課題でもあります。この課題に対して、未来を担う高校生たちに正面から向き合い考えて欲しいと思っています。その生徒たちを育てる先生方に正確な情報や知識、資料などを提供していければ、いや、そうすることが退職して時間のゆとりがある、在職中力不足で何もできなかった私の責務でもあるのではないかと考えています。（田村ゆう子）

◆福島第一原発事故から2～3か月は事態がどうなっていくのか不安で、安眠できませんでした。とうとう日本でも大事故が起こってしまった。チェルノブイリ原発事故の直後、理科の教員として2～3時間、その危険性を授業で取り上げたものの、やがて転勤を契機に科目も変わり、時とともに忘れ去ってしま

っていた時です。今、大人として、元教員として責任を感じ、その反省をするために原発関係の情報を集め、考え、互いに話し合う中で、これからどうすべきなのか答えを探していきたいと思っています。そして部会として、原発について授業などに役立つような問題提起や提言ができればよいと願っています。

（田村広史）

◆昨年、縁あって原発部会に誘ってもらいました。私は化学が専攻ですが、原子力にも憧れを抱いていました。ただ原子力は原爆・水爆として軍事的かつ国際政治的に無惨な使われ方をし、また以前から放射性廃棄物処理は困難なことは分かっていたのですが、追い打ちをかけるように「希望」の原発は既に多くの事故を引き起こしました。そして今回この福島第一原発です。過ちは直すべきで、もはや原発を使わない生活をすべきだと言うことは、この事故をもって決定的になりました。

この会では、私としては現実の放射線量を自分で測定して知りたいし、原子力の科学とその現実を知り、福島第一原発の周辺に行って現地の事実を自分の目で見られればと思います。（秋山千明）